

4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

昨年度からの変更点

本学では教育目標としての 6 つの社会人基礎力を設け、各授業において関連する能力をシラバスに掲載することになった。これに伴い、授業評価アンケートにおいても、それらの能力が授業において身につけているかを測るための項目を設けた。また、2012 年度に行った学生満足度調査で測定した授業外の学習時間が極めて少なかったため、各授業での実態を把握する目的で授業外の学習時間を測る項目を設けた。これらの変更に伴い質問項目数が増加したため、その他の項目についても全面的に見なおして、大幅な改訂を行った。

また、結果のより詳細な分析を可能にするため、選択肢に「どちらとも言えない」を追加し、回答方法を 4 段階から 5 段階に変更した。

全学的観点から見た回答の傾向

全学のアンケート結果集計表をもとに、全体の回答傾向を検討した。

「授業の状況 (Q1~Q7)」の結果をみると、すべての質問項目で 5 (そう思う) の回答が最も多く、項目平均はすべて 4.0 を超えていた。したがって、全体としてみると、本学の授業は学生から高い評価を受けているように思われる。

学生の「学習の状況 (Q8~Q10)」については、Q8「授業の内容は理解できた」で 4 (どちらかと言えばそう思う) の回答が最も多くなっており、また、1 (そう思わない) と 2 (どちらかと言えばそう思わない) の否定的な回答も一定数あるため、一部の授業や一部の学生において授業の理解が十分でない可能性がある。さらに、Q10 の授業外の学習時間は、今年度から新たに追加した項目であるが、1 (0 時間) の回答が最も多く 24.3% であった。学部学科別にみると、英語英文学科は、3 (30 分~1 時間未満) の回答が最も多く、他と比較すると授業外の学習時間がやや長かった。授業外の学習時間 (学修時間) は中教審の答申などでも課題とされており、本学においても改善のための方策を考える必要がある。

「学習成果 (Q11~Q16)」は、社会人基礎力を測るために今年度から新たに付け加えた項目である。6 つすべての質問項目で 4 (どちらかと言えばそう思う) の回答が最も多く、項目平均は 4.0 より低かったため、あまり高い評価とは言えない。しかしながら、この解釈には注意すべき点がある。社会人基礎力は 6 つすべての能力を 1 つの授業で養成できるわけではないので、授業ごとに関連する能力を 1 つ以上設定している。したがって、Q11~Q16 について、関連する能力として設定されている授業とそうでない授業を分けた分析を追加で行った (図 1)。その結果、関連する能力と設定されている授業においては、6 つの項目平均はいずれも 4.0 を超えており、授業による学習成果が得られていると言えるだろう。

